

の状態、とくに植物の小孔が開いているか閉じているかにかかなり微粒子の沈着が依存することを暗示しているの  
で、気象要素よりは植物の状態に関係がありそうである。

Islitzer (1962) は、直接沈着速度を測定したものではないが、Chamberlain法による沈着式の質量収支から沈着速度を求めたものがある。これには 16m~4 m の温度差が測定してあるので、これを整理してみた。第7図はこの結果で横軸に温度差、縦軸に  $v_g$  をとったものである。この結果はある程度成層が安定になると沈着速度が小さくなるようであるが、これは拡散式による誤差もかなり入っているのでもこのまゝ信用するわけには行かない。今後気層の安定度による影響を確認する資料の集積を待つより致し方ない段階である。

結 論

沈着速度は、 $v_g = \beta V_*$  と大体かける。安全性の評価にはシャー、温度、その他の影響を考え、平均値として現状では次の値を採用するのがよい、

$$\text{地面に対し } v_g = 5 \times 10^{-2} \cdot V_*$$

したがって気象要素としては摩擦速度を推定する方法が必要である。

謝 言

この草稿の不備な点をご指摘いただき、御一読下された気象協会小平博士、お茶の水大の坂上教授、高層課長大田博士、農業技術研究所井上博士に厚く感謝します、

また測器課竹内技官には多くの意見をいただき、討論していただいたことを特に感謝します。

文 献

- 1) D.V. Booker 1958; Physical measurements of activity in samples from Windscale. A.E. R.E HP/R-2607.
- 2) A.C. Chamberlain 1959; Deposition of iodine-131 in Northern England in October. Q.J.R.M 85.
- 3) A.C. Chamberlain & R.D. Wiffen 1959; Some observations on the behaviour of radioiodine vapour in the atmosphere Geofisica pura e Applicata 42.
- 4) A.C. Chamberlain & R.C. Chadwick 1953; Deposition of radio-iodine vapour in the atmosphere. Nucleonics 11.
- 5) P.R. Owen 1960; Dust deposition from a turbulent airstream: Pergamon Press, Aerodynamic capture of particles.
- 6) A.C. Chamberlain 1960; Aspects of the deposition of radioactive and other gases and particles.
- 7) N.F. Islitzer & R.K. Dumbould. 1962; 平滑な地面上における大気拡散と沈着の研究、原子力気象調査会、調査文献、No. 121.
- 8) E. Inoue 1953; On the Floating conditions of particles in a Turbulent Fluid. Joun. Japan, Soc. Aeronautical Engineering. 1.

国 際 会 議 の お 知 ら せ

大気放射の会議

IUGG の IAMAP (International Association of Meteorology and Atmospheric Physics) の国際放射委員会は、1964年7月28日~8月5日にレニングラードで会議を開く予定です。大気放射の分野での新しい興味ある問題についての依頼原稿、寄稿原稿が広く論ぜられます。

プログラム予定は次のとおり：

- 大気の外線スペクトル
- 惑星大気における放射理論
- 地球大気のエネギー平衡

- a) 自由大気中の放射場の実験的研究
- b) 大気力学と大循環とに關聯した放射の問題

放射気候学

地上設備と観測網

問合せ先

Prof. J. London

Dept. of Astrophysics and the Atmospheric Sciences, University of Colorado  
Boulder, Colorado, U.S.A.

Prof. M.I. Budyko

The Main Geophysical Observatory  
M. Spasskoya 7.  
Leningrad K-18 U.S.S.R.

大気オゾン・シンポジウム

IAMAP のオゾン委員会は、1964年8月31日~9月5日にアメリカ合衆国、ニューメキシコ、アルブケルクで国際大気オゾン・シンポジウムを開く予定です。

問合せ先

Prof. V.H. Regener

Dept. of Physics and Astronomy  
The University of New Mexico  
1929 Lomas Boulevard  
Albuquerque, New Mexico U.S.A.